

第5回専門部会が出された意見

1 【外国人市民の表記、定義について】

- ① 「外国人市民等」とするか、もしくは「外国人につながる市民」といった創造的な表現にした方がよい。
- ② 「外国人市民等」が最もよいとも思わないが、国が使っており、結果的にそうになってしまっている。「外国につながる市民」も全員が繋がっているように感じられ、区別が付きにくい。文言の問題なので何か選ばないと仕方ないのだが、その裏にこういう議論があったということは引き継いでいただきたい。
- ③ 「外国人市民」であっても「外国人住民」であっても、定義がどうなっているかというところがポイントで、国籍というものをどう捉えるのかということではないか。

2 「Ⅱ 本市の現状」について

- ④ 冒頭の(1)外国人市民の増加の中で、市内人口に占める外国人住民の割合を記載しているので、全国では何%かを入れて対比させたらよいのではないか。
- ⑤ 多文化共生意識調査を実施したのはコロナ期間であり、コロナ期間によりこういう回答になったということもあると思う。コロナ期の調査であったことをどこかに示してはどうか。
- ⑥ 3 本市の多文化共生施策の取組状況の中の(2)生活支援・行政サービスの提供と教育に関する支援②教育の「多言語による就学案内」について、どの言語に対応しているのか、他と書き方を揃えた方がよい。

3 「Ⅲ 課題の整理」について

【2 外国人市民が安心して生活し活躍できる環境づくり】

- ⑦ (2)外国人市民の活躍促進の中の2番目の2行目「関係機関と連携して…」とある中で、この「関係機関」が何になるのか入れた方がよい。
- ⑧ 改定の趣旨に地域コミュニティの活性化も追加されているので、(2)外国人市民の活躍促進の中にもコミュニティでの活躍について盛り込めないか。

4 「Ⅳ 多文化共生のまちづくりの目標と今後の取組」について

- ⑨ 目標2の冒頭にある「外国人市民に対して地域の文化や習慣等への理解促進を図る」とあるが、日本人市民に対する外国人市民の文化等への理解の促進についてはここでは触れておらず、非対称性を感じる。
- ⑩ 「外国人市民に対して地域の文化や習慣等への理解促進を図る」はこのまま読むと「郷に入っては郷に従え」、「日本の文化を勉強しなさい」というように一方的に言われているように読めてしまったのではないか。「日本で暮らしやすいような雰囲気を出していきましょう」というように日本語としてうまく書けないか。広島で暮らす中では日本の生活習慣がメインになるので、そこをうまく理解していただけるようにしていけないといけない。外国人市民の文化を排除するわけではなく、お互いの文化を理解することが重要だ。

- ⑪ 「上記目標 1、2 は、第 6 次広島市基本計画にも盛り込まれているため、現行指針から変更しません」と書いているところを、「上記目標 1、2 は、第 6 次広島市基本計画にも盛り込まれており現行指針から変更しません」という書き方に変えたほうがよい。
- ⑫ 「目標 2 多文化共生意識の高揚」の「高揚」は「醸成」がよい。

5 「施策体系」について

【目標 1 基本施策 2 / 施策 1 医療・保健・福祉サービスの提供】

- ⑬ 前半で高齢者の増加ということが統計的に主張されているが、それが後ろの方でどういう形に展開していくのか、何か書けるとよい。介護の問題など、多文化共生に関わることが、以前よりも多くなっていると思われるので、その言及ができるかどうかだと思う。
- ⑭ 地域包括支援センターなども介護の入口として、これから外国籍の方が関わってくると思うので、そのあたりの必要性が増してきている広島市の現状というのを共有できたらよいのかもしれない。

【目標 1 基本施策 2 / 施策 2 教育機会の確保と子ども・子育て支援】

- ⑮ 「母語を学ぶことや母語で教育を受けることの重要性について啓発を進める」というのは誰に対して啓発を進めるのかがわかりにくい。

【目標 1 基本施策 2 / 施策 4 災害時等の非常時における支援】

- ⑯ 「発災時に円滑な支援を行うことができるよう、平時に訓練や研修を行います」とあるが、これをやる主体が（各社会福祉協議会や学校等）平時に訓練をやりやすいように区の地域起こし推進課で予算措置をして補助などができないか。「地域の活性化」というニュアンスが災害対応でも感じられるとよい。
- ⑰ 地域コミュニティの活性化という文脈も踏まえて、平時の地域等での防災訓練に積極的に地域に住む外国人を巻き込むなど、そこで外国人自身の防災意識を高めるようなものがあれば、外国人側にも地域側にも訴えるものがあるのではないかな。

【目標 1 基本施策 3 / 施策 1 適正な労働環境の確保】

- ⑱ 「外国人の受入れにかかわる関係団体（経済団体、日本語教育機関、地域団体等）間のネットワークを構築するための会議体を設置し、企業等における多文化共生の理解を深め、自発的な外国人にも働きやすい環境づくりにつながるよう機運醸成を図るとともに、企業や留学生の就職希望者を支援する 学校関係者 等の諸課題や情報を把握・整理し、順次施策に反映させます。」は「自発的な～」から 2 文に分ける。
- ⑲ 「自発的な外国人にも働きやすい環境づくり」の意味がわかりにくい。

【目標 2 基本施策 1 / 施策 1 交流を深める機会の提供と相互理解の促進】

- ⑳ 「国籍や文化が異なることに起因する差別を生まないように」という、「国籍」や「文化」に原因を限定、断定しているところが気になる。
- ㉑ イベントを超えたところで、防災など外国人市民が当事者としてどういうことをやっているのか提案できるとよい。
- ㉒ 以前、「ぺあせろべ」というイベントを中央公園でやっており、フリーマーケットなど色々交流ができる場であった。中央公園があったサッカースタジアムを開放し、拠点となるような場所で活動を仕掛ければ、市民自ら企画を出し交流する機会ができ、今後継続していく

ものが仕組めるのではないか。

- ②③ 外国人市民が日本の生活をするにあたり日本の文化・習慣を理解するところに重きが置かれているので、外国人側の持っている文化・習慣について理解するというのを、イベントを超えてやっていけないか。
- ②④ 支援者をどう支援していくかが見えない。地域で支援をしている方々の実態が、個人でも団体もなかなか把握しきれていないので、まずは市内で活動する方々の情報収集があり、それに基づいて情報提供があり、何かしらの活動支援というのがメニューとして設けられるのであれば、一つ書いてもよいかもしれない。
- ②⑤ 小学校での人権意識や多文化共生の学びなどについて学校の教育の中で感じている保護者たちがこども会や体協に関わることで、それらに対する意識が高まっていっていると感じる。よって、こども会や体協などの集まりで聞き取りや発信をするのはどうか。
- ②⑥ 日本語指導コーディネーターは着任してこれからというときに転勤になってしまうので、1番いいのは教育委員会の中にそういうコーディネーター役の人がいることだ。そういう地域もたくさんある。またはこの役割については異動を5年縛りではなく長くする、また、一度外に出ても元の学校に戻ってきて再度務めるなど、その辺の充実がないといけない。基町保育園の中のコーディネーター役も、1年か2年で園長先生になってしまうので、もう少し何年も務める、後継者を育てた上で昇進するなどしないと、広がり難しい。
- ②⑦ 日本語指導の登録者の横の繋がりがなく、この繋がりをつくってほしいという声がある。

【目標2 基本施策2 / 施策1 多文化共生意識の啓発】

- ②⑧ 「国の啓発月間と合わせ」と書いてあると、その時にしかやらないように読まれかねないので削除するのがよい。
- ②⑨ 人権週間行事や人権に関する教育などで啓発に努めるとあるが、そうする方がよい、倫理的に正しいというところで留まっていないか。従来の取組を超えてどういうことが提案できるのか、より進んでいくためにどこまでできるのか課題を感じる。

【多文化共生施策の推進体制の整備】

- ③⑩ 「(1)市内の推進体制の整備」について、「やさしい日本語」という言葉を入れてもよいが、基本的には多文化共生のまちづくりに関係する施策の推進についての研修を通して、市職員の多文化共生意識の啓発を図るとし、そこに外国人市民への支援に関する知見の共有を加えてはどうか。
- ③⑪ 「(2)多様な主体との連携・協働」に、社会福祉協議会やLMO、自治会など地域の市民団体に対する研修や知見を増やす機会の提供を入れてはどうか。まず知ってもらうことが支援者づくりの第一歩目だ。
- ③⑫ 「(3)多文化共生の拠点整備」について、「いられる」場所、ふらっと行ける場所があるとよい。
- ③⑬ 「(3)同上」について、「設けることを検討します」は、もう少し踏み込んで書けるのではないか。「多文化共生の機能強化につながる拠点」と書いてあるが、ここにその目的や役割、方針、誰のために、誰がどういうように過ごせる拠点をつくっていきたいのか、意思表明を加えてはどうか。